



横浜市立 瀬谷さくら小学校

学校運営協議会だより

平成26年7月10日

平成26年度・第1号

共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」

～みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校・さくらの子～

自分の命を守り、 家族や地域の方々を思いやれるさくらの子を

瀬谷さくら小学校 学校運営協議会 会長 網代 宗四郎

しとしと降る雨の中、元気を取り戻し輝きを増している紫陽花に心を引かれる今日この頃ですが、皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます、

昨年度に引き続き、会長を務めさせていただきまます網代でございます。浅学非才な者でございますが、学校運営協議会の設立のテーマを念頭におき、努力してまいります。皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

今年度の主な取り組みと致しましては、次の通り考えております。

児童の皆さんが、安全に安心して登下校できますよう、登下校中の見守りと交通安全指導を学援隊の方々や、地域の方々のご協力を頂き行ってまいります。

児童の皆さんの学習やクラブ活動の支援を、さくらの子応援隊の皆さんに行っていただきます。

はまっ子ふれあいスクールが、児童の皆さんにとって安全で楽しい場所となりますよう、様々な企画を立て括動を行ってまいります。さらに、紙面に記載の通り、来年3月1日からキッズ化される事になっております。3月1日の放課後キッズクラブの開所に向けて、今後、施設の整備や運営

法人の選定作業等が行われます。しっかりした整備が行われるよう、また、瀬谷さくら小学校にふさわしい法人が選ばれるよう努力してまいります。



児童の皆さんや地域の皆さんが共に楽しんでいただけるよう、地域連携部会の皆さんや地域の方々、PTAの皆さんと力を併せて「さくら小地域夏まつり」を運営致します。

学校運営への理解と協力、そして、適切な評価を行いますと共に、運営協議会の活動を皆様にご理解いただくための広報活動を、学校評価・広報部会の皆さんと一緒に行ってまいります。

災害から児童の皆さんを何時、如何なる状況の中でも守る為の、学校、保護者、地域等の役割や連携を検討、啓発致しますと共に、児童の皆さん一人ひとりが自分の命を守る事が出来るよう、さらに、家族の、地域の一員として家族や地域の皆さんの役に立てる人になっていただけるよう、防災冊子の作成や防災教育を行ってまいりたいと考えています。

はまっ子のキッズ化について

昨年度最後の学校運営協議会（2月28日）で、「はまっ子ふれあいスクール」の「放課後キッズクラブ」への転換について、横浜市こども青少年局から提案があり、転換の可否について4月中に結論を出すよう要請されました。

「はまっ子ふれあいスクール」と「放課後キッ

ズクラブ」の主な違いは、①開設時間を現在の18時から19時まで延長すること、②17時以降の利用を有料とすること、③運営主体を現在の運営委員会から法人に変更することでした。詳細については、6ページの比較表をご覧ください。

[2ページへ続く]

子どもたちがもっている力を磨き輝かせるために

瀬谷さくら小学校 校長 武藤牧子



瀬谷さくら小学校が開校して5年目になります。下瀬谷小学校と日向山小学校の再編統合後の児童の健やかな成長を願い、学校運営協議会が設置されました。学校運営協議会のテーマ『共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」～みんなの力で守り育てよう瀬谷さくら小学校・さくらの子～』にあるように、地域が学校と協働し児童の育成や学校づくりに積極的に参画して下さっています。子どもたちの安全を見守ることや教育活動への支援に大勢の方が携わって下さっています。人と人とのつながりを通して学ぶことができるさくら小学校にとって、人は大切な宝物です。

さくら小学校の学校教育目標の「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」は、一人ひとりの子どもが自分の良さに気づき自信をもって学校生活を送るとともに、周りの友達の良さにも気づき互いに認め合い励まし合えることを目指しています。自分のことを認めてくれる友達との生活は人とかかわることの喜びを味わわせてくれます。そして、身近な家族

や地域の人に支えられていることに気づき、自分の住んでいるまちが好きになり、まちのために、みんなのために自分ができることに一生懸命取り組む子どもの姿として現れます。気持ちの良い挨拶ができる子、特別クラブの練習に目標をもって参加している子、委員会活動や清掃活動などやるべきことに意欲的に取り組んでいる子、人の話を心で聴いている子、自分の思いを素直に表現している子、優しい子、これは、さくら小学校447名の子どもたちがもっている力です。

これからも、私たちは、子どもたち一人ひとりがもっている力を磨き輝かせるための学校の役割について考え、保護者の皆様のご支援と地域の皆様のお知恵をいただき、『共に学び、共に創る地域の学校』に努めてまいります。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔キッズ化について 1ページから続く〕

突然の提案であったので、学校運営協議会では、①3月のPTA総会で、保護者に説明して賛否を問う、②運営主体の法人について、既存の法人に委託するか、自前の法人を立ち上げるか、過去に転換を経験した学校などから情報を収集し、メリット、デメリットについて研究することになり、この件に関して、4月に臨時の学校運営協議会を開いて協議することになりました。

4月21日に開かれた臨時の学校運営協議会では、PTA総会で保護者に説明し、特に反対はなかったことが報告され、学校運営協議会としても、時間が延長されることで助かる保護者も多いのではないかとということで、キッズ化への転換については容認することになりました。この時、時間延長によって、児童と家族が接する時間が短くなることへの懸念も表明されました。

一方、運営主体の法人化については、メリッ

ト、デメリットが明確にならず、更に情報を収集して、5月の第1回学校運営協議会で結論を出すことになりました。

5月15日に開かれた26年度第1回学校運営協議会では、運営主体となる法人を公募するか、自前の法人を立ち上げるかについて議論致しました。その結果、自前の法人を立ち上げるには“期限（6月に法人の設立総会実施）までに、人材の裏付けをはじめ諸準備が出来そうもない”という結論に達し、既成の法人に委託することに決定しました。この報告を受けて、横浜市から配布された資料が6ページに掲載したものです。

今後、瀬谷区長が運営法人を公募し、選定基準に基づいて運営法人を選定、来年2月ごろ保護者を対象に説明会が開催され、3月1日、「放課後キッズクラブ」が開設されることになっています。（西村）

横浜市瀬谷さくら小学校 平成26年度版 中期学校経営方針 (平成26年4月～平成28年3月)

学 校 概 要

創立年月日 平成22年4月1日(下瀬谷小学校、日向山小学校の再編統合により開校)
 校長 武藤 敏子 副校長 松田 恵子 学級数18学級 児童数 448名 下瀬谷中学校ブロック

学 校 教 育 目 標

「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」
 (知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。(徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。
 (体) 自分や人の命を大切にできる子に育てます。(公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。
 (関) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

学 校 経 営 中 期 目 標

(知) 基礎・基本を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てます。
 (徳) 善悪の判断ができる子、自分を大切に、他を思いやれる子に育てます。
 (体) 望ましい生活習慣を身につけ、進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てます。
 (公) 地域の方々とのふれあいを通して、地域を愛する子どもを育てます。
 (関) 情報教育などを中心に、様々な今日的課題に対応できる力を育てます。

学校経営
 中期目標
 設定理由

全ての児童が安心して生活できる学校を目指し、個々の児童が自分に自信をもち生活をよりよくするために主体的に行動できるよう全教職員で児童一人ひとりを見守り、指導・支援していくことを実践します。また、学校運営協議会を中心に地域・保護者とともに協働して子どもの将来に責任をもつ地域行動型学校の学校作りを進めます。

小 中 一 貫 教 育 推 進 ブ ロ ッ ク 目 標

共通目標
 ・児童・生徒指導を中心とした小中連携を密にし、地域を愛し、地域から愛される子どもを育てています。
 ・小中一貫カリキュラムの共通理解を深め、学習の基礎・基本の定着を図っています。

自校の取組
 ・中学校ブロック内での情報交換を密にして、小中一貫した児童・生徒指導を進めています。
 ・教職員や児童生徒の小中交流を通して、一貫カリキュラムの理解を深め、発達に応じた指導の工夫を行うと共に、子どもが安心と期待をもって中学に進学できるようにしています。

共 通 取 組 内 容

1 確かな学力	2 豊かな心	3 健やかな体
○基礎・基本の確実な習得を旨とし「分かる授業」作りを行い、自分の言葉で考え表現する子どもを育てます。 ○基礎学力の向上をめざし漢字・計算検定や算数補充学習に進んで取り組む姿勢を育てます。	○誰もが安心して豊かに過ごすことができる学校風土作りに取り組み、自他を大切にできる心構えや態度を育てます。 ○目標の重点化を図り、規範意識やあいさつを大切にできる指導を充実させます。	○食教育・いのちの教育の充実が図られています。 ○「いきいきキッズ体力向上計画」の実践や特別陸上クラブ等を通して、自分の健康に関心をもって体力向上に取り組む子どもを育てます。

重 点 取 組 分 野

4 児童・生徒指導	5 研究・研修	6 地域連携
○あいさつ運動が定着し、元気で気持ちの良いあいさつができる子どもが育ちます。 ○縦割り活動が充実し、異学年交流による思いやりの心を育てます。 ○不登校や問題行動の芽を見逃さないよう教職員の共通理解を図り、子どもの様子を丁寧にみとります。 ○定期的にアンケートを実施し、子ども・保護者・地域の声を教育活動に反映します。	○授業研究や実技研修等、研修の方法を工夫しながら、授業力の向上に進んで取り組みます。 ○指導主事や大学教授など外部講師を招き、新しい教育の情報を授業に取り入れます。 ○メンターチームを中心に主体的な授業研究に取り組みます。	○学校運営協議会を中心に地域との連携が進み、地域協働型学校の学校作りを推進します。 ○さくらの子応援隊や学援隊など多くの地域人材の積極的な学校支援を受け児童の学習や安全環境の充実を図ります。 ○さくらの子基金の活用により、地域コーディネーターを中心とした学校支援活動を充実します。

人 材 育 成 ・ 組 織 運 営

○校内研修の計画的な実施や重点研究の授業研究・実技研修による実践的な授業力向上を図り、授業の質を高めるとともに教師力の向上を目指します。
 ○若手教員が中心となるメンターチーム「チームさくら」で、主体的な授業研究の他に全職員向けの不祥事防止研修を企画運営し、全教職員のコンプライアンスの向上を図ることや危機管理等の研修も計画的に実施し教育公務員としての資質の向上を図ります。
 ○学校創造委員会による横断的な組織横断の有効活用をめざし、課題解決や取り組みの改善を図るとともに全教職員による情報の共有化や目指す方向性の共通理解を図り、組織として互いに支え合い、磨き合う組織作りを進めます。

平成26年度 委員と部会構成 学校運営協議会

5月15日、横浜市教育委員会から山下指導主事を迎え、平成26年度・学校運営協議会委員の委嘱式が行われました。八嶋前校長に代わって、今年度着任された武藤校長、下瀬谷団地自治会の金澤前会長に代わって同自治会の民部田会長が、

新たに委員委嘱を受けました。

引き続き行われた第1回学校運営協議会では、役員案、平成26年度事業計画案、部会構成とその担当委員案が承認され、26年度の新しい体制がスタートしました。

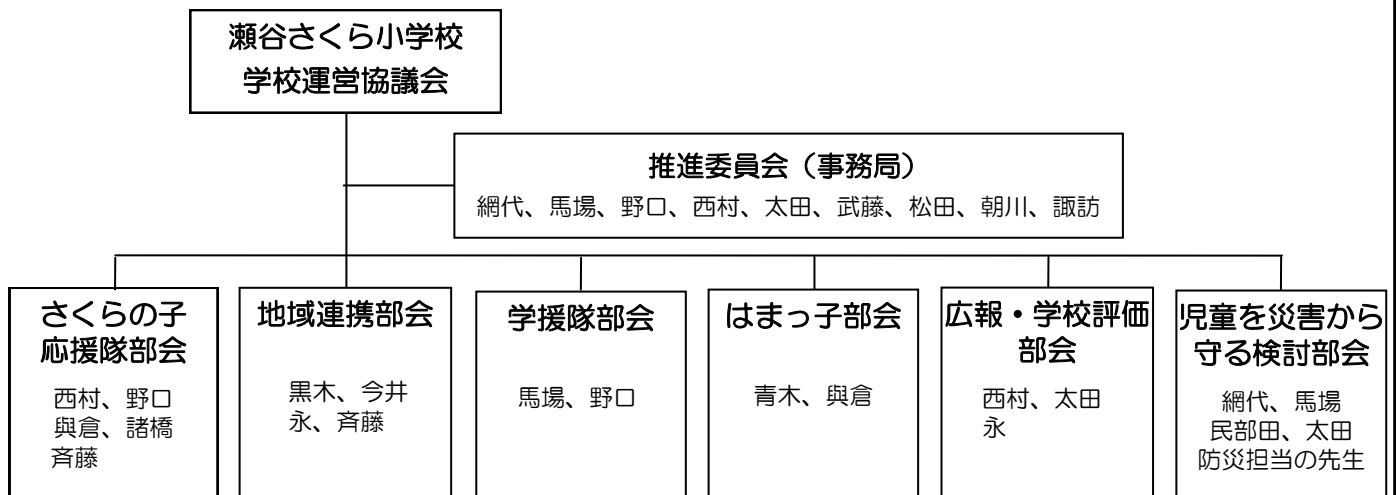
役職	氏名	区分	団体役職
会長	網代宗四郎	地域代表	瀬谷区連合自治会町内会連絡協議会 副会長 瀬谷第二地区連合自治会 会長 南瀬谷ニュータウン自治会 会長
副会長	馬場勝己	地域代表	ひなた山地区自治会連絡協議会 会長 ひなた山第二自治会 会長
	今井保美	地域代表	ひなた山地区自治会連絡協議会 前会長
委員	黒木昭博	地域代表	下瀬谷自治会 会長
	民部田真治	地域代表	下瀬谷団地自治会 会長
	西村快晴	地域代表	瀬谷第二地区連合自治会 元総務 下瀬谷第三町内会 元会長
	諸橋茂夫	学識経験者	横浜隼人高校講師 ひなた山第三自治会 元会長
	野口元	地域代表	瀬谷さくら小学校学援隊 事務局代表
	青木俊太郎	はまっ子代表	瀬谷さくら小学校はまっ子ふれあいスクール チーフパートナー
	與倉光男	学識経験者	南瀬谷中学校 元校長 日向山小学校はまっ子ふれあいスクール 前チーフパートナー
	太田和男	保護者代表	瀬谷さくら小学校PTA 会長
	永尚子	保護者代表	瀬谷さくら小学校PTA 副会長
	斉藤慶子	保護者代表	瀬谷さくら小学校PTA 副会長
	武藤牧子	学校代表	瀬谷さくら小学校 校長
	松田恵子	学校代表	瀬谷さくら小学校 副校長
	推進員	朝川健太郎	教諭
諏訪浩		教諭	瀬谷さくら小学校 主幹教諭



武藤 校長



民部田 委員



平成26年度事業の具体的な取組 学校運営協議会

平成26年度は、さらなる学校評価の効果的な活用やPTA及び地域参画の在り方について検討し、学校支援活動の協働を推進する。また、算数補充やクラブ活動支援などの教育支援活動について、効果的効率的な方策を教職員と共に立案していく。活動部会の活動資金については、基金の活用や地域への空き缶回収の呼びかけなどによる資金の有効活用について検討していく。

- 1 学校運営に関する学校運営協議会の役割とそのために必要な機能、組織のあり方についての見直し
 - (1) 学校運営協議会の役割、組織のあり方についての検討
 - (2) 瀬谷さくら小学校に有用な組織の在り方
 - (3) 地域人材の効果的な活用の在り方
- 2 保護者や地域住民の意向を適切に把握し、学校運営や教育活動に反映させる方策
 - (1) 保護者や地域等の思いや願いを把握するためのアンケート調査の実施と分析
 - (2) 学校の広報活動の在り方について検討し、その結果や課題等を公表
 - (3) 学校支援組織の有用な活用と円滑な連携方法の検討
- 3 学力向上・防災計画・地域連携等についての活動と地域人材の効果的な活用について
 - (1) さくらの子応援隊部会・地域連携部会等、各部会の組織・運営体制
 - (2) 各部会の活動方針・活動の在り方・地域人材の効果的な活用の在り方を検討
 - (3) 地域コーディネーター養成講座への参加とさくらの子応援隊の活用
- 4 地域参画型学校運営協議会の在り方や、積極的な活用方法の在り方の検討
 - (1) 先進校の事例等を研修し、本校学校運営協議会の今後の在り方や活動についての研究
 - (2) 支援組織への参加者意識を高める学校運営協議会の広報の在り方の検討
 - (3) 課題の整理と、結果の保護者・地域・関係機関への広報
 - (4) 有用な学校評価方法の開発と積極的な広報活動の在り方の検討
- 5 学校運営協議会設立による成果と課題の収集
 - (1) 合議機関として、その役割と責任を果たしているか
 - (2) 設置後の学校経営や既存の学校支援組織の活動への影響を集約する
 - (3) 保護者、地域等に向けて学校運営協議会の活動を広報し、学校評価を通して、設置したことについての評価を受ける。

子どもたちの挨拶に感激

下瀬谷団地自治会 会長 民部田 真治

平成26年度の下瀬谷団地自治会会長を務めることになり、自治会や地域の会合に出席して勉強しております。最近では地域の繋がりが昔に比べて希薄になってしまったと言われていますが、自治会活動を通して、温かみのある町内、隣人とのお付き合いを大事にしなが、少子・高齢化の対応を進めていけたらいいなと思う今日この頃です。

まず、基本的なことですが、自分に出来る事として、近隣の方に気持ち良く自分から挨拶し、気持ちを伝えることを心がけています。瀬谷さくら小学校の子どもたちにも、「おはようございます」「こんにちは」と声をかけると返事が返ってきます。子どもたちは私のことを誰だか知りません。知らないお

じさんが挨拶しても返事が返ってくるので驚きました。「子どもは地域の大人で守り育てる」という言葉を聞いたことがあります。地域の皆様、教職員の皆様のご尽力を感じております。

7月19日、20日と「さくら小地域夏まつり」が開催されます。夏まつり実行委員会に出席しているときに、自分自身が子どもの頃、地元の夏まつりで友人と楽しく過ごしたり、大人たちの注意を聞かず、叱られたことを思い出しました。昔も今も、まつりは子どもたちが楽しみにしている行事なので、自治会長として頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



こ放第292号

平成26年6月18日

瀬谷さくら小学校保護者の皆様

横浜市こども青少年局放課後児童育成課長

瀬谷さくら小学校はまっ子ふれあいスクールの放課後キッズクラブへの転換について

日頃より、本市の放課後児童育成施策へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。

現在、瀬谷さくら小学校では子どもたちの【遊びの場】として、「はまっ子ふれあいスクール」を実施していますが、平成27年3月に「放課後キッズクラブ」に転換することになりました。

放課後キッズクラブは、はまっ子ふれあいスクールの【遊びの場】に加え、就労等で昼間保護者が家庭にいない児童のための【預かりの場】としての役割も兼ねています。放課後キッズクラブとはまっ子ふれあいスクールの比較については、下の表をご参照ください。放課後キッズクラブに転換した後も、瀬谷さくら小学校の子どもたちは引き続き利用できます。

なお、放課後キッズクラブの運営は法人が行いますが、法人が決定した後、来年2月頃には保護者の皆様を対象とした説明会を開催する予定です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【「放課後キッズクラブ」と「はまっ子ふれあいスクール」の比較表】

	放課後キッズクラブ	はまっ子ふれあいスクール
開設時間	放課後～19時まで ※土曜日・長期休業中については 8時30分～19時まで	放課後～18時まで
利用料	登録時に傷害見舞金制度負担金として500円	
	① 放課後～17時までは無料 ② 17時～19時までは月額5,000円 (1回800円でも利用可能)	無料
おやつ	17時以降参加する児童におやつを提供 (別途、実費程度徴収します)	なし
運営主体	法人 (NPO法人、財団法人、株式会社、 社会福祉法人、学校法人、など)	運営委員会
スタッフ	常勤スタッフ 2名 ※できるだけはまっ子スタッフを継続 して雇用できるよう努めます。	常勤スタッフ 1名

ご質問等は、学校ではなく、はまっ子のチーフパートナーまたは下記担当までお寄せください。来月以降に発行するはまっ子だより等を通して、随時保護者の皆様へご案内いたします。

担当：放課後児童育成課 大塚、齋藤

電話：671-4446 FAX：663-1926

電子メール：kd-kids@city.yokohama.jp

学援隊活動10周年

副隊長（南瀬谷ニュータウン） 山田昌行

下瀬谷小学校の学童見守りを始めたのは、あの忌まわしい栃木県今市市の小学一年女子児童の連れ去り殺害事件がきっかけでした。平成18年春、「ニュータウン防犯パトロール隊」を、野口元氏の発起で結成。夜間だけでなく、昼のパトロールもやろうという



ことで、「学校見回り隊」として、学校周辺のパトロールを始め、一時は瀬谷第二小学校にも出向きました。

その後、下瀬谷自治会、下瀬谷第三町内会と合同で、「下瀬谷小学校学援隊」が発足。さらに、下瀬谷小学校と日向山小学校の統合により、「瀬谷さくら小学校学援隊」に発展し、児童の登下校見守り、青パト巡回、教育支援と活動の幅が広がりました。



しかし、10年も経つと、当初60代だったメンバーも皆70代になり、逝去された人もいます。今後活動を継続していくには、隊員の若返りが課題ですが、老メンバーも児童たちから元気ももらって、活動を続けていきたいと思っています。

一人でも多く算数が好きな子になれば！

教育支援員 渡辺良彦

「先生できました」と、うれしそうに呼びかける子どもに、「どうかな」と声をかけながら回答を見て、「すごい全部合ってる」とほめながら花丸を書いてあげると、「ヤッター」と次のプリントを取りにいく子どもの様子を見てると楽しくなります。

「よろしくお願いします」という子どもたちの挨拶で始まる授業は、スピーディーにどんどんやる子、マイペースでゆっくりやる子、じっくり考えて



いるようで手がなかなか動かない子、授業が半ばを過ぎると集中できずに姿勢を崩して休んでいる子と様々

です（余談ですが、普段こんな子ども達を一人で見ている先生はほんとうに大変だなあと頭の下がる思いがします）。手がなかなか動かない子を中心に

支援するのが我々の役目と思い、丁寧に説明をしながら問題が解けたときは自分自身もうれしくなります。「さあこの調子で次の問題をやろう・・・」と隣を見ると姿勢を崩して休んでいる子。「もうちょっと頑張ろう！」と結構大変な毎回の授業です。



「瀬谷さくら小学校の算数補充授業を手伝ってくれないか？」と誘われて教育支援員になって4年目になりました。本当に役立っているのか自分自身良くわかりませんが、単純な私は、校長先生や諸先生方が「助かっています、子どもがやる気になった」と言われると、良かったやった甲斐があったと納得してしまいます。今日も元気な声で「よろしくお願いします」の挨拶で始まり、「ありがとうございました」で終わる算数支援授業で、一人でも多くの子供が算数を好きになってくれる手助けになればと思っています。

※ 教育支援

算数サポート、算数補充、クラブ活動の3種類があり、今年は、算数サポートが3年生と4年生で各23回、算数補充が3年生から6年生まで各11回、クラブ活動が4年生以上で9回行われます。1回は約45分です。写真は、算数サポートの一コマで、多い時は23名の教育支援員が入って、ほとんどマンツーマンの指導をしています。

スクールゾーン対策協議会

6月6日、瀬谷さくら小学校コミュニティ・スクールにてスクールゾーン対策協議会が開かれました。スクールゾーン対策協議会を開催するにあたり、事前に交通安全協会の方、学援隊の方、校外委員が実際に歩いてスクールゾーンの点検をして下さいました。点検を終えて問題となった箇所については、瀬谷



区、泉区の警察署、土木事務所、区役所へ改善を要望しました。

スクールゾーン対策協議会にて関係諸機関の方、地域の方、先生、PTAと一緒に対策について話し合いを行い、必要な補修や設置をしていただくことになりました。児童がより安全で安心して通学することができるために、このようにおおぜいの方々が熱心に考え、協力をして下さることに、心より感謝申し上げます。(永)



一年生と昔遊び

6月5日、今年も1年生と学援隊有志が、恒例の昔遊びをしました。コマ回し、メンコ、けん玉、あや取り、かるた、折り紙など。

コマ回しは、コマと縄がフィットせず、なかなか難しかったようです。昔は、日頃の遊びの中で、縄の先端を細くするなど工夫をしたもので、今後はそういう準備も必要かなと思いました。(西村)



あなたの使い方 4年生、5年生

宿泊体験学習を前に、6月20日、内山、河合両先生の指導でまき割りの勉強をしました。先生の話の中に、木本竹末(木もと竹うら)という言葉がありました。まき割りの機会が少ない現代っ子には理解できたかどうか。これは、まきを割るときは根元側から、竹を割くときは逆に末(根本と反対側)から割くと、きれいに割れやすいという先人の知恵を伝える言葉です。子どもたちは、あなたの使い方にはすぐ慣れて、きれいにまきを割っていました。しかし、ふしのあるまきには大分てこずっていたようです。(西村)



瀬谷警察署長と情報交換

5月26日、瀬谷警察署長と学援隊の情報交換会が行われました。学援隊からは、日頃の活動と成果について説明し、下校時に主な交差点への警官の配備やパトカー巡回の回数を増してほしいこ

となどをお願いしました。(西村)

さくら小地域夏まつり

開催日 7月19日(土曜日)

18:00~21:00

7月20日(日曜日)

17:30~20:30

場 所 瀬谷さくら小学校校庭

出し物 模擬店 盆踊り

【編集後記】

今回は、無理を言って、学援隊と教育支援員の代表の方にも寄稿していただきました。ありがとうございました。これからも、交代で生の声をお届けできればと思っています。

キッズ化については、校歌・校章制定、教育支援参加、さくらの子基金設立などと並ぶ大きな問題ととらえ、取り上げました。紙面の都合で、十分に説明することはできませんでしたが、疑問点がありましたら、学校運営協議会委員やまっ子チーフパートナーへお問い合わせください。(西村)

学校運営協議会だより
平成26年度・第1号

平成26年7月10日
横浜市立瀬谷さくら小学校
学校運営協議会
発行責任者

会長 網代宗四郎

編集

広報・学校評価部会